

# 産地戦略

実施期間 令和8～12年度

実施主体 滋賀県大津・南部農業農村振興事務所農産普及課  
 都道府県 滋賀県  
 対象地域 守山市、草津市  
 対象品目 バラ



## 新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

## 目指す姿

滋賀県南部地域に位置する守山市や草津市は施設バラ栽培が盛んである。近年、難防除性の病害虫であるハダニやうどんこ病の発生による防除コストの増大が問題となっている。そこで、バラの安定生産を実現するため、市域で連携して近年バラ栽培での応用が進んでいるUV-B光照射と反射シート等を利用したこれらの病害虫に対する化学農薬使用量の削減と防除の省力化を目指す。

## 現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植					収穫							
うどんこ病化学農薬散布	う	う	う	う			う	う	う	う	う	う	うどんこ病は9～6月に月に2回、ハダニ類は周年で月に1回の薬剤散布を実施する。
ハダニ類化学農薬散布	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	

## グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	定植					収穫							・UV-Bは22時～2時の間に1時間30分照射。 ・ハダニ類に対する天敵放飼前は化学農薬散布によりハダニ類の密度を可能な限り抑制する。 ・発生初期の気門封鎖剤散布に対応する。 ・うどんこ病発生の好適環境となる3～6月は化学農薬を月に1回程度散布する。
UV-B照射・光反射資材敷設・天敵カブリダニ放飼	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	
うどんこ病・ハダニ類化学農薬散布	う	う	う	ハ		ハ		ハ				う	

## グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R7	目標R12	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	5.4	▶ 5.4	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 0.91	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 0.91	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 0.91	

**環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要**

**〈技術の内容・効果〉**

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	UV-B照射、反射資材敷設、天敵、気門封鎖剤による I P M	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

**〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉**

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	うどんこ病に対する化学農薬の使用回数（回）	19	▶ 4	UV-B照射によりうどんこ病に対する化学農薬の散布は発生に好適な環境となる3～6月のみとなる。
環境 省力	ハダニ類に対する化学農薬の使用回数（回）	12	▶ 4	ハダニ類に対する基幹防除を化学農薬から天敵や気門封鎖剤に切り替えることで削減する。
			▶	
			▶	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

**グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針**

実証結果を研修会やマニュアルの配布等により、地域の生産者へ向けて発信し、技術の普及定着に繋げる。

**関係者の役割**

関係者名	普及センター			
役割	地域の生産者への技術普及定着に向けた技術的支援			

**事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標**

農業機械名	作業内容	活用面積（R●）（ha）	備考
事業を活用して農業機械等を導入した場合に記載（該当しない場合は当該欄を削除）			

**生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等**

\* 事業において「消費者理解の醸成」に取り組んだ場合に、今後の取組方針を記載（該当しない場合は当該欄を削除）

**その他**